

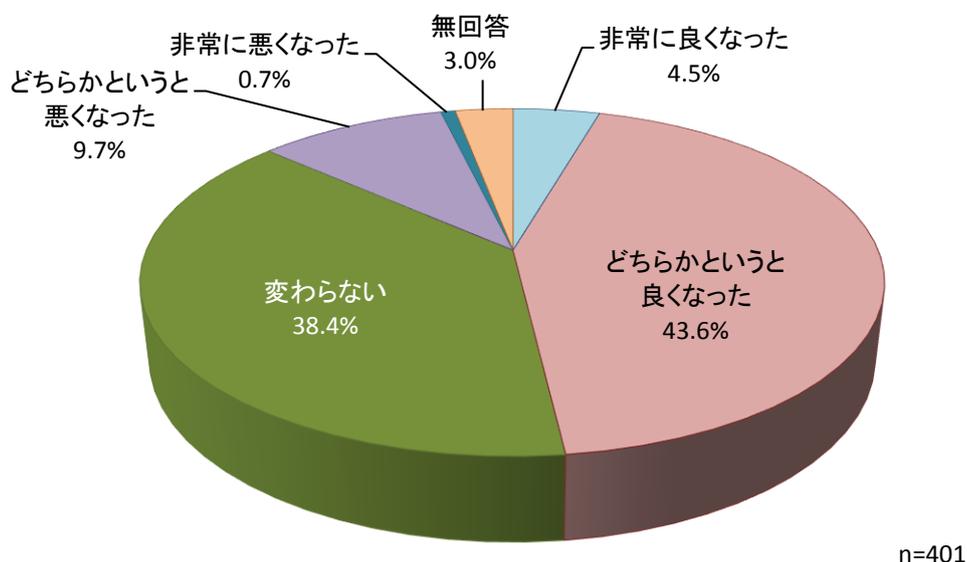
14. 宇都宮市の景観について

(1) 宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか

◇ 「非常に良くなった」と「どちらかというと言良くなった」を合わせた【良くなった(計)】が5割弱

問43	本市の景観は10年前と比べてどうなったと感じますか。	(○は1つ)
		n=401
1	非常に良くなった	4.5%
2	どちらかというと言良くなった	43.6%
3	変わらない	38.4%
4	どちらかというと言悪くなった	9.7%
5	非常に悪くなった	0.7%
	(無回答)	3.0%

<図IV-14-1>全体



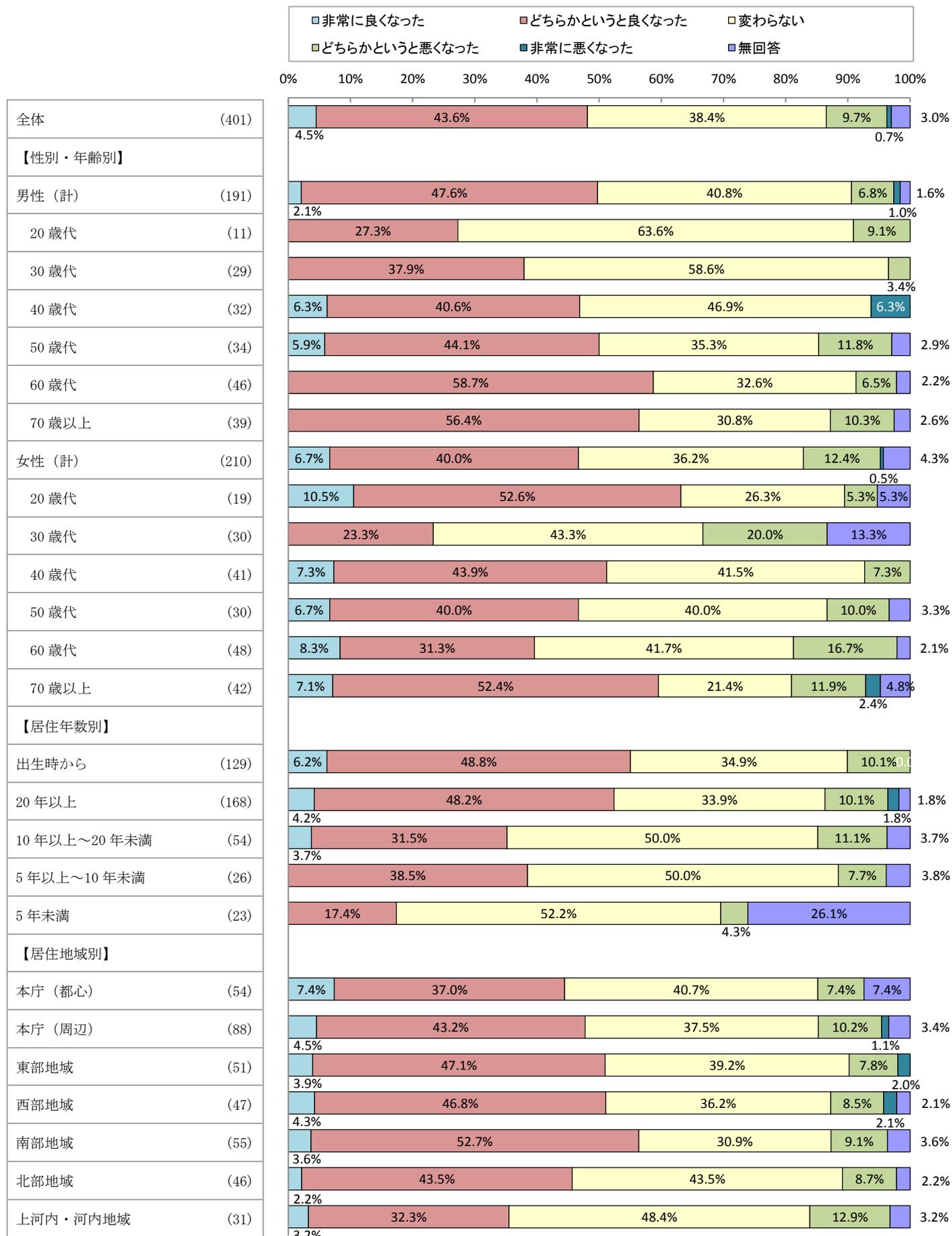
宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるかについては、「非常に良くなった」が4.5%、「どちらかというと言良くなった」が43.6%で、これらを合わせた【良くなった(計)】は48.1%であった。一方、「変わらない」も38.4%であった。(図IV-14-1)

性別・年齢別でみると、【良くなった(計)】は<女性/20歳代>が63.1%で最も高かった。「どちらかというと言悪くなった」と「非常に悪くなった」を合わせた【悪くなった(計)】は<女性/30歳代>が20.0%で最も高かった。(図IV-14-2)

居住年数別でみると、【良くなった(計)】は<出生時から>が55.0%で最も高く、居住年数が長いほど割合が増加する傾向であった。(図IV-14-2)

居住地域別でみると、【良くなった(計)】は<上河内・河内地域>を除いた地域が4割半ば～5割半ばであった。(図IV-14-2)

<図IV-14-2>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別



(2) 「宇都宮らしい景観」とは何か

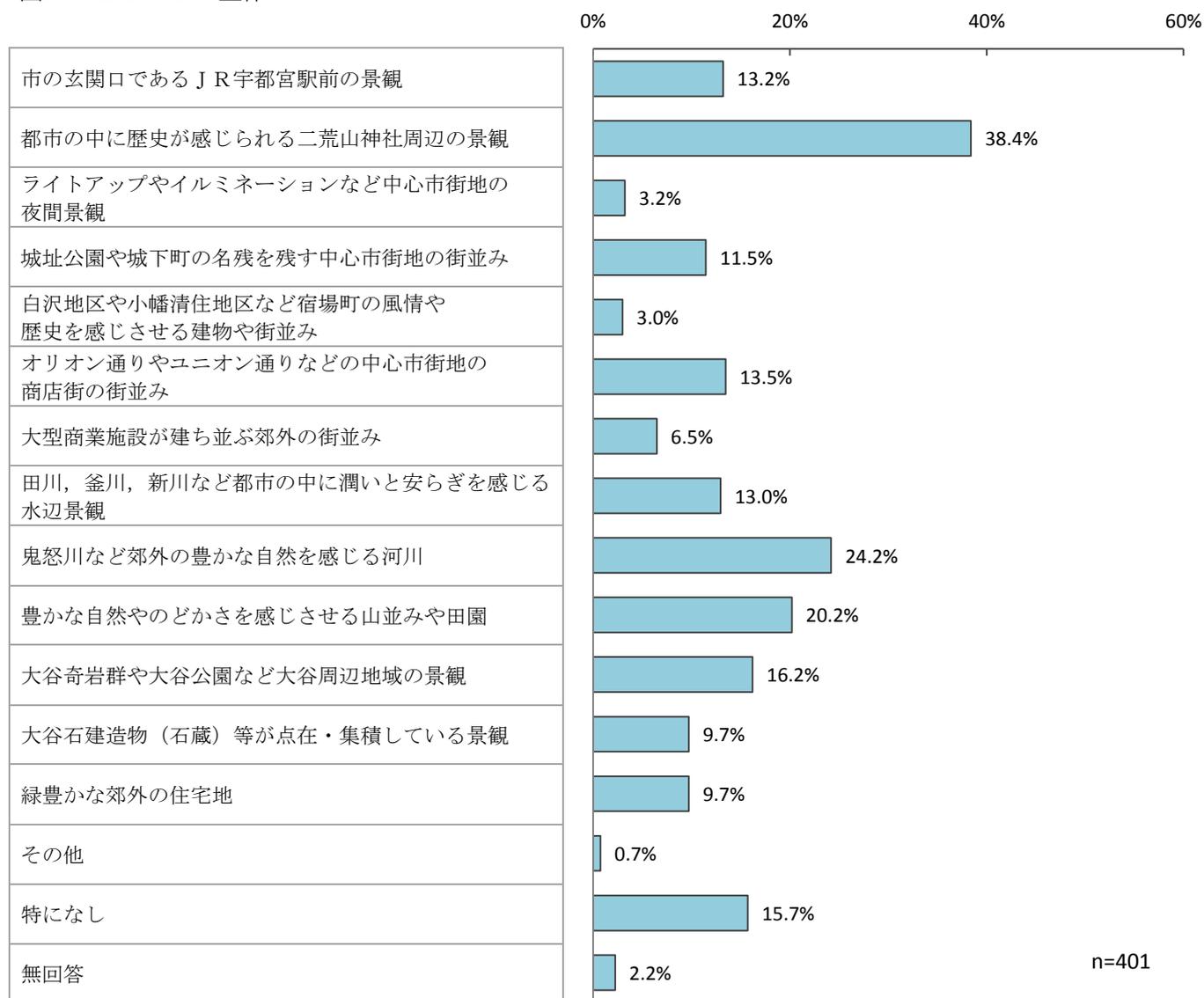
◇ 「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」が4割弱

問4-4 宇都宮市内で愛着や誇りを感じる「宇都宮らしい景観」は何ですか。(○は3つまで)

n=401

1	市の玄関口であるJR宇都宮駅前の景観	13.2%
2	都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観	38.4%
3	ライトアップやイルミネーションなど中心市街地の夜間景観	3.2%
4	城址公園や城下町の名残を残す中心市街地の街並み	11.5%
5	白沢地区や小幡清住地区など宿場町の風情や歴史を感じさせる建物や街並み	3.0%
6	オリオン通りやユニオン通りなどの中心市街地の商店街の街並み	13.5%
7	大型商業施設が建ち並ぶ郊外の街並み	6.5%
8	田川、釜川、新川など都市の中に潤いと安らぎを感じる水辺景観	13.0%
9	鬼怒川など郊外の豊かな自然を感じる河川	24.2%
10	豊かな自然やのどかさを感じさせる山並みや田園	20.2%
11	大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観	16.2%
12	大谷石建造物(石蔵)等が点在・集積している景観	9.7%
13	緑豊かな郊外の住宅地	9.7%
14	その他	0.7%
15	特になし	15.7%
	(無回答)	2.2%

<図IV-14-3>全体



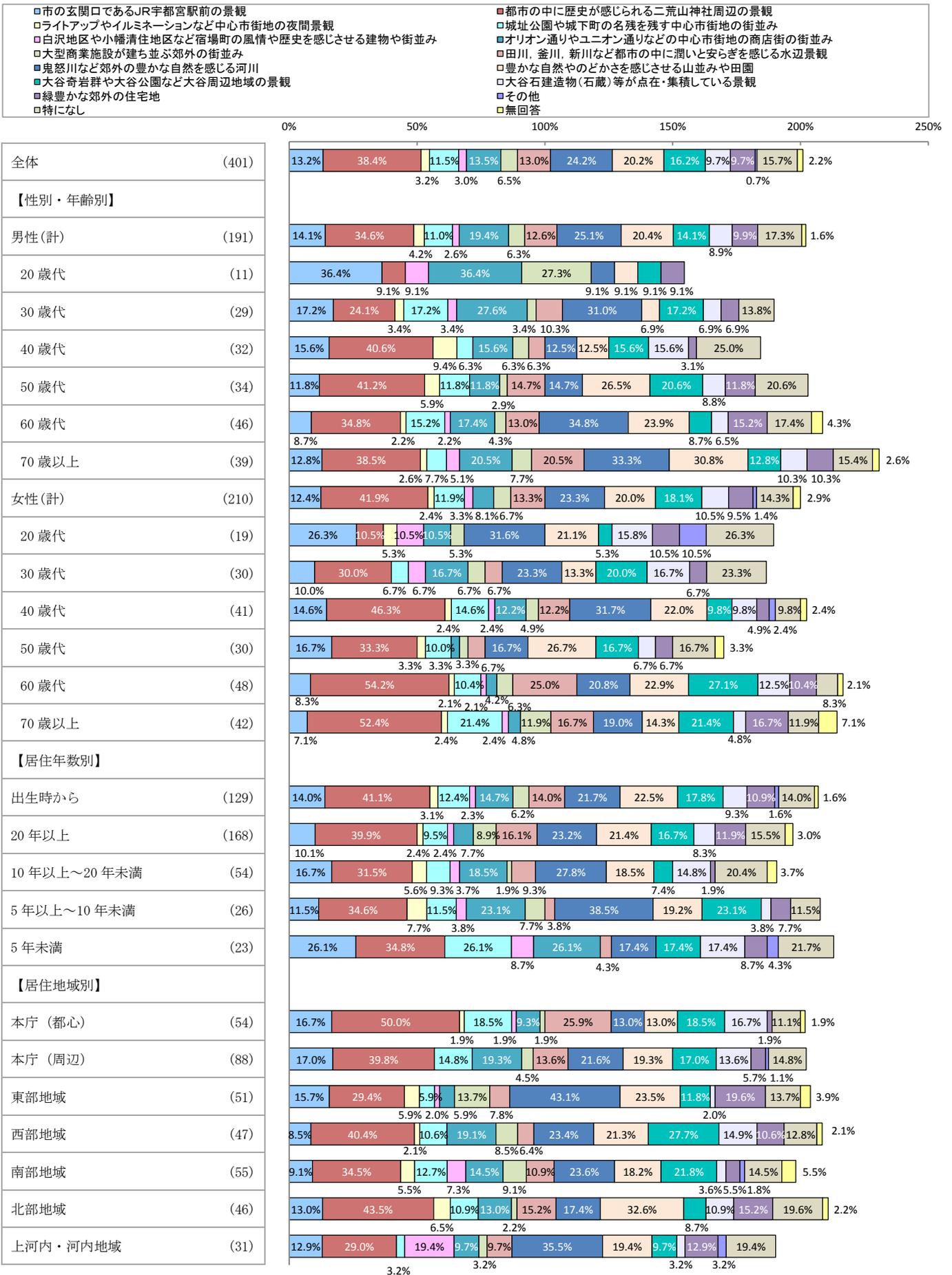
「宇都宮らしい景観」とは何かについては、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」が38.4%で最も高く、次いで「鬼怒川など郊外の豊かな自然を感じる河川」が24.2%であった。（図IV-14-3）

性別・年齢別でみると、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」は<女性/60歳代>が54.2%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が52.4%であった。「鬼怒川など郊外の豊かな自然を感じる河川」は<男性/60歳代>が34.8%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が33.3%であった。（図IV-14-4）

居住年数別でみると、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」は<出生時から>が41.1%で最も高かった。「鬼怒川など郊外の豊かな自然を感じる河川」は<5年以上～10年未満>が38.5%で最も高かった。（図IV-14-4）

居住地域別でみると、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」は<本庁（都心）>が50.0%で最も高かった。「鬼怒川など郊外の豊かな自然を感じる河川」は<東部地域>が43.1%で最も高かった。（図IV-14-4）

<図IV-14-4>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別

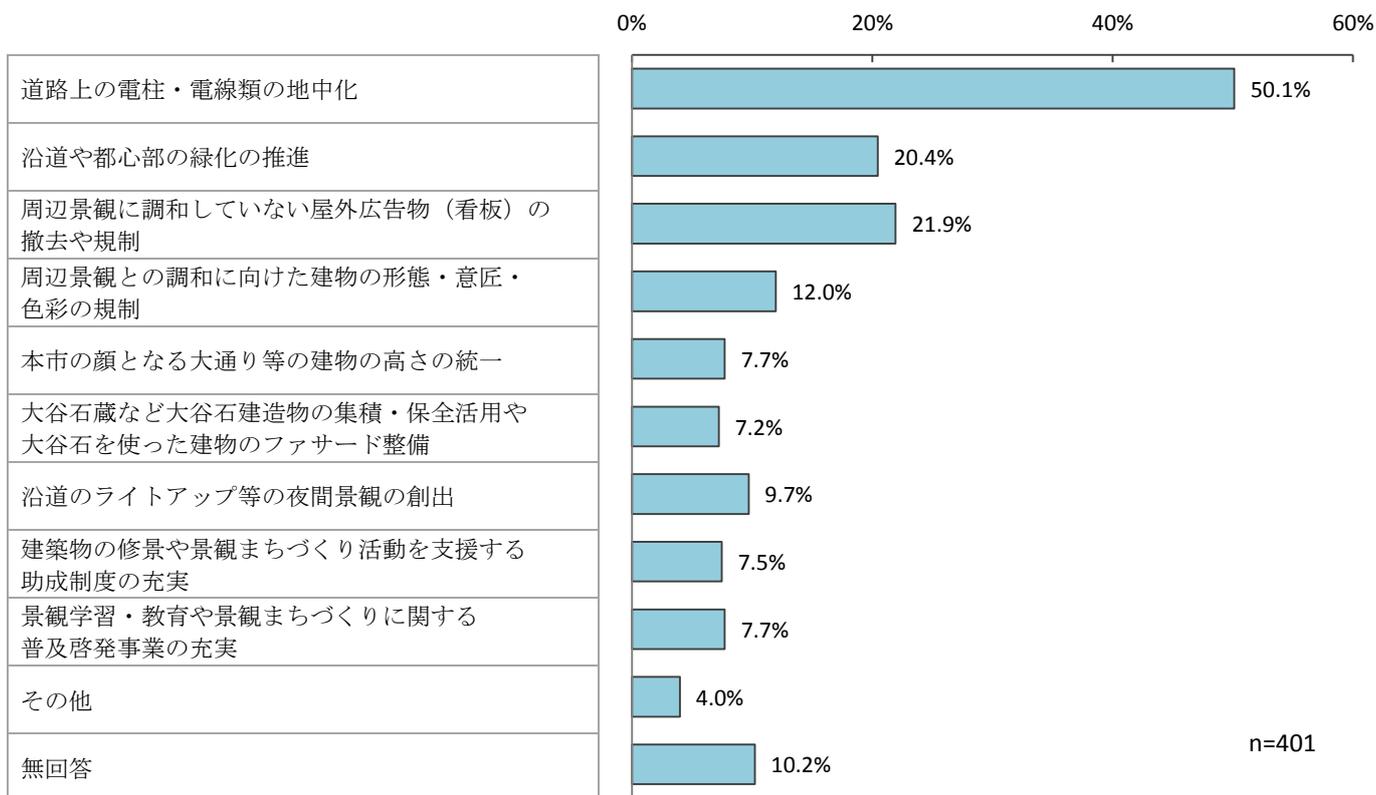


(3) 良好な都市景観の形成に必要なこと

◇ 「道路上の電柱・電線類の地中化」が約5割

問 4 5 良好な都市景観の形成に必要なことは何だと思えますか。		(○は2つまで)
		n=401
1	道路上の電柱・電線類の地中化	50.1%
2	沿道や都心部の緑化の推進	20.4%
3	周辺景観に調和していない屋外広告物（看板）の撤去や規制	21.9%
4	周辺景観との調和に向けた建物の形態・意匠・色彩の規制	12.0%
5	本市の顔となる大通り等の建物の高さの統一	7.7%
6	大谷石蔵など大谷石建造物の集積・保全活用や大谷石を使った建物のファサード整備	7.2%
7	沿道のライトアップ等の夜間景観の創出	9.7%
8	建築物の修景や景観まちづくり活動を支援する助成制度の充実	7.5%
9	景観学習・教育や景観まちづくりに関する普及啓発事業の充実	7.7%
10	その他	4.0%
	(無回答)	10.2%

<図IV-14-5>全体



良好な都市景観の形成に必要なことについては、「道路上の電柱・電線類の地中化」が 50.1%で最も高く、次いで「周辺景観に調和していない屋外広告物（看板）の撤去や規制」が 21.9%、「沿道や都心部の緑化の推進」が 20.4%と続いている。（図IV-14-5）

性別・年齢別でみると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は＜男性/60歳代＞が 69.6%で最も高かった。「周辺景観に調和していない屋外広告物（看板）の撤去や規制」は＜男性/40歳代＞が 31.3%で最も高かった。（図IV-14-6）

居住年数別でみると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は＜10年以上～20年未満＞が 53.7%で最も高かった。「周辺景観に調和していない屋外広告物（看板）の撤去や規制」は＜5年以上～10年未満＞が 26.9%で最も高かった。（図IV-14-6）

居住地域別でみると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は＜本庁（都心）＞が 57.4%で最も高かった。「周辺景観に調和していない屋外広告物（看板）の撤去や規制」は＜本庁（周辺）＞が 30.7%で最も高かった。（図IV-14-6）

<図IV-14-6>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別

- 道路上の電柱・電線類の地中化
- 周辺景観に調和していない屋外広告物(看板)の撤去や規制
- 本市の顔となる大通り等の建物の高さの統一
- 沿道のライトアップ等の夜間景観の創出
- 景観学習・教育や景観まちづくりに関する普及啓発事業の充実
- 無回答
- 沿道や都心部の緑化の推進
- 周辺景観との調和に向けた建物の形態・意匠・色彩の規制
- 大谷石蔵など大谷石建造物の集積・保全活用や大谷石を使った建物のファサード整備
- 建築物の修景や景観まちづくり活動を支援する助成制度の充実
- その他

